奈良県立

（通巻第20号）

民俗博物館だより

Vol. Ⅵ No. 2
1979. 9.15

（帯解寺地蔵会）

目　　次

「寺院と年中行事」展について（特別テーマ展によせて ①）……1
寺院と年中行事（特別テーマ展によせて ②）……3
蓮華会（大和の民俗行事）……5
鍛冶屋の製作技術（民俗資料調査抄報）……6
おしらせ……7

特別テーマ展によせて ①

「寺院と年中行事」展について　川内一郎

今秋の特別テーマ展は「寺院と年中行事」というテーマ企画で、大和にのこる大小寺院が執り行なうさまざまな行事を取り扱い、それぞれの地域の人たちと地域内の寺院との関わりについて考えてみようとする意図と、大寺院が営む行事（法会・儀礼とでも呼べるもの）が、地域ごとの寺院へ移入されて、そこで行なわれる年中行事のいくつかが村落内の人たちが関与していった様相を理解していただく契機となることを含みました。

したがって、展示では、東大寺のお水取りの諸道具、興福寺の維摩会の諸用具、そして長谷寺の陀々追しの諸用具など古来より栄え今日に至る大寺院の行事用具を一方に設け、奈良市中ノ川のオコナイ用具、野迫川村北今西及び弓手原のオコナイ用具を対比させながら村落での修正会かつ修二会の法会の同種異形の在り方と、村落へ移入され今日まで受け継いできた村人たちの姿を、この行事から汲みとってもらえればと思う。

一年の折目として正月に行なわれる修正会についてみても、大寺院と村寺かつ村寺に関与する人たちのいかにその年に託した望みの大いなることが窺えます。この修正会（修二会をも含めて）の行事の多くは、五穀豊穰祈願を内在させたものであり、この祈願と関わるものとしては、室生村東無山や天理市中山田の虫送り、そして御所市・橋本院の牛滝会（うしたきえ）などの行事があり、これらの行事用具をも展示し、村落での五穀豊穰への祈願の姿を提示したい。

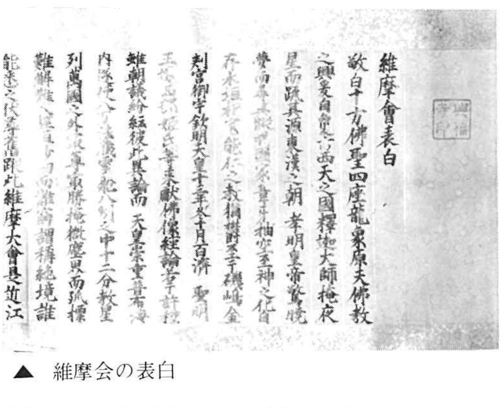
一方、この農耕儀礼と関わる仏教的行事の他に先亡供養を主に営なまれるいくつかの行事が大小の寺院あるいは村落内の任意集団である「講」によって行なわれている。盆行事をはじめとして春秋彼岸会行事や涅槃会行事などは先亡供養の行事である。

いま村落を中心にみると、都祁村吐山の施餓鬼会のセガキダナ、御所市東佐味のアラタナ、奈良市大安寺町の彼岸会の戒名名記の名号掛軸そして奈良市八嶋町の涅槃会の掛図などを展示し、村落での行事と村人たちの仏教的行事の在り方を理解してもらいたいと思っている。

これら、農耕に関わる行事と先亡供養に関わる行事を大雑把に紹介してきたが、他に今回の特別テーマ展で出陳する年中行事（法会等）の用具として、松尾寺の修正会、矢田寺の修二会、小泉庚申堂庚申信仰、五条・念仏寺の鬼走り、そして吉野山金峯山寺の蓮華会（蛙飛び）、松尾山の潅仏会など寺院の行事用具、さらに村落では大宇陀町大熊の薬師講、桜井市慈恩寺の行者講、明日香村稲淵の大日講、奈良市八嶋町六斎講涅槃会、奈良市大安寺町六斎講彼岸会などの「講」所有の用具を展示して、村落内の「講」のもつ行事を紹介したい。

このように紹介した展示品の数々から理解いただけるごとく、一年のうち定まった時期に行なわれる行事が、大小の寺院から村落内の諸々の「講」によって営まれていることがわかると思います。これらの年中行事が町や村の人たちが、どのように受けとめてきたかということを、大寺院の年中行事、村寺の年中行事を通じて、展示から再発見していただければ、今回の特別テーマ展を企画した役割が果しえたと考える次第であります。

（当館館長）



▲ 維摩会の表白

特別テーマ展によせて　②

寺院と年中行事

浦西　勉

はじめに

日本へ仏教が公式に伝来したのは欽明天皇七年（538）とされている。インドの釈加牟尼が伝えその弟子によって作りあげられた厖大な仏教経典が、中国で漢文に訳され、日本に伝えられたのである。伝えられるまでは天然崇拝などの幼稚な、雑信仰であったわが国が、この仏教伝来によって、日本の信仰を含めてあらゆる分野に仏教文化が浸透して、思想や文化が深くなっていったのである。今日仏教文化は日本に浸透してしまって、外国の宗教とはいえないほどであり、ゆえに日本仏教と名づけられているところであろう。しかし先に記したとおり、仏教は大陸から伝来したものであり、これが日本文化に同化した跡を知らねばならぬことは、日本文化を考える上にきわめて重要な問題である。

ここでは、仏教文化のうち民間に特に影響を与えた仏教法会を中心にして、どのような面に影響を与えたのかということを見てゆこうと思うのである。しかし複雑な問題が多く含まれており、なかなか解明できるものではないが、日本文化に影響を与えたと思われる多くの仏教法会の事例をあげてゆくことにする。そのことが、いかにすみずみまで仏教文化の影響があったことが確認できると思うからである。

仏教法会の概要

仏教法会が行なわれるようになったのはおそらく日本へ仏教は伝来した当初からと思われる。しかし当初は貴族中心、国家中心に仏教が受け入れられ、ゆえに国家的行事が多かった。特に諸国法要としての、最勝会、仁王般若会、法華会がもっともよく知られた行事である。その他の法会には、年穀豊穣を祈り、国家平安を願い、御悩平癒、怨敵退散などの祈願をするために、国民全体の過去の罪過を一身にあつめて祈るという。懺法、悔過法などが行なわれていた。たとえば吉祥悔過、薬師悔過、仏名悔過、十一面悔過、地蔵悔過・阿弥陀悔過などが古くから行なわれていたという記録がある。

また供養を中心とした法会も古くから行なわれていたようで、盂蘭盆会は推古天皇十四年（606）が文献の初見であるといわれ、聖武天皇天平五年（733）の続日本紀に「始令二大膳職備一二盂蘭盆供養一」とありこの年から宮中恒例になったという。

その他大寺院においては、灌仏会・涅槃会放生会などが行なわれ、また経典を中心とした維摩会などが行なわれていた。

これらはそれぞれ大寺院において行なわれており国家中心的行事としてそれぞれの寺院では、その法会を行うことが任務のように考えられるようになったようである。

ここに、源爲憲の『三宝絵詞』(984 年ごろ成立）の巻下に当時の年中行事の行なわれていた諸山の大会をあげているが、それを記してゆこう。[註①]

正月おこなふよし。御齊會。ひえの山の四季の懺法。温室の功徳。布薩。

二月おこなふよし。西院阿難悔過、山階寺（興福寺）の涅槃会。石塔。

三月、志賀の大法会。薬師寺最勝会。高雄の法華会。法華寺の華厳會。比叡坂下勸學會。薬師寺の萬燈會。

四月　比叡の舎利會。大安寺大般若會。御前の灌佛。ひえの山の受戒。

五月　長谷寺菩薩戒。施米。

六月　東大寺千花會。

▲ 牛玉像（松尾寺蔵）

七月　文殊會・盂蘭盆。
八月　ひえの山の不斷念佛。八幡放生会。
九月　比叡山の灌頂。
十月　山階寺（興福寺）の維摩會。
十一月　熊野八講。比叡山の霜月會。
十二月　御佛名。

このように、古くから大寺院や各地の寺院でそれぞれ仏教法会が行なわれていたことがうかがい知ることができる。しかしこれらはあくまで大寺院中心、鎮護国家の道場としての寺院で僧侶達が国家の行事として行っていた法会であったと思われる。

日本仏教史の中で奈良時代の南都仏教の次にあらわれるのが、平安仏教として、最澄と空海の天台宗と真言宗である。特にこの両宗派は密教を中心とするもので、祈祷や諸尊を祀った。またこの両宗は神仏習合の中心的役割を荷なったようで、本地垂迹の理論が浸透してゆき、全国津々浦々にまで神宮寺の成立鎮守神の勧請が進められていったようである。本地垂迹とは仏教の誕生地インドを本地とする仏が、日本に垂迹し、かりにあらわれたのが日本の神であるというのである。神と仏とを結びつける本地垂迹説は天台宗、真言宗の密教の僧侶が中心となり、神社や鎮座の由来儀礼行事、名称など仏教教理から説明することがはじまったのである。これらの影響は今日、宮座行事の中に多く見られるところである。また各地の神社の脇に寺院（神宮寺）が存在している例などから、神社の行事にも多く仏教儀礼の影響があったと思われる。

平安時代の密教から鎌倉、室町時代になると、浄土宗、浄土真宗、禅宗、日蓮宗など、それぞれ仏教の経典を特定なものに限定し、その経典を中心として信仰をする宗派があらわれた。たとえば浄土宗、浄土真宗であれば浄土三部経、日蓮宗であれば法華経というようにである。これらの宗派は江戸時代になって檀家制度のもとでピッタリ民衆と接して、それぞれ仏教儀礼、たとえば、彼岸、盆、十夜、報恩講などの行事を定着させていったと考えられる。以上簡略に仏教法会の民間への浸透を述べてきたが、それぞれの時代の仏教が、それぞれ何らかの形で民間と接していたと考えられる。時代の上に次の時代の仏教儀礼が村々に重なってゆくので、複雑な要素が多くなってくる。

奈良県内における仏教的年中行事

今日私達が、県内でみることができる仏教的年中行事は、実に様々でありそれぞれ歴史もあって、村々に定着している。たとえば多くの村々で行なっている仏教的年中行事をあげれば、修正会、節分、涅槃会・灌仏会・彼岸会・薬師会・練供養・虫祈祷・盆・地蔵盆十夜・報恩講・観音講・庚申講・牛滝会などがある。これらの仏教的行事が、どのようにして各村々に定着するにいたったかどうしても知らねば、私達のもつ年中行事（日本文化）を理解することができないと考える。ここにおいて十分に仏教的年中行事の影響の過程を知ることができないが、少しおおざっぱに述べてゆくことにする。

県内においては、仏教伝来した当初に南都仏教が成立し、それが今日まで数々の仏教史と関係しながら残っている。次の平安時代の仏教（密教）も県内のあちこちに存在している。また鎌倉、室町時代に成立した仏教もそれぞれの村々に定着している。それぞれに村

▲ ダッタン帽のいただかせ（東大寺）

▲ 庚申堂の柴燈護摩（庚申堂金輪院）

落の人々と関係していたと思われる。各時代の仏教文化が県内のいたるところに存在しているのである。

たとえば、東大寺のお水取り、長谷寺のだだむし、矢田寺、松尾寺、金峯山寺などの修正会、修二会は、寺院成立当初から行なわれたであろうと思う。この古寺院において行なわれるこれらの法会に、祈願せられる牛玉宝印の押された牛玉札を村人が豊作の祈りとして信仰している。

また、密教（真言宗）では各村々の宮さんの脇に神宮寺が存在し、それぞれ村人と関係を持っていた。たとえば修正会、虫の祈祷、雨乞いなどがそれである。たとえば曽爾村で享保17年に虫が発生して虫の祈祷を行った。その時、「廿日より廿四乞春日寺ニテ祈祷之アリ」とあるごとく、[註②]春日神社の宮寺の春日寺にて虫の祈祷をしたのであった。これらは宮寺と村人との関係を明らかにするものの一例である。

また次の時代にあらわれた各宗派は、先に記したごとく、江戸時代になり檀家制度をひかれた時に決定的な村人との関係を持った到ったのであった。たとえば、灌仏会、彼岸会盆行事から念仏講、報恩講、観音講などが、それらの寺院を中心に行なれたのである。

以上のごとく、県内でもそれぞれの時代で何らかの形において寺院と関係を持ち、影響をうけてきたのである。

次に見ておきたいのは、村落においてはどの面について仏教的行事の影響があったのかということである。それに関して次の三点に影響があったと考えられる。

(1)　農耕儀礼への影響
(2)　村落社会組織への影響
(3)　先祖供養への影響

以上の三点に的をしぼって説明しておこうと思う。

(1)　農耕儀礼への影響

農業中心の村落において、豊作物、特に稲作の豊作を願う気持が大変強く、そのために農耕儀礼が発達している。予祝儀礼、虫の祈祷、雨乞い、風の祈祷、収穫祭、などが農耕儀礼とよばれているものである。仏教的行事はそれぞれに色濃く関係していることを予祝儀礼を例にとって述べる。

奈良県内の山辺郡、天理市の東部、などにおいて、正月を中心としてオコナイとよばれている行事をする。これは、お寺または堂に村人が供えものを持ちよって、仏に祈るのである。多くは導師は真言の僧侶である。この行事では必ず牛玉の札を発行され、各自はこれを持ち帰り春の籾まきの田の畔に立てる風習がある。村人の稲の豊作を願う気持がこの行事を今も残している。この行事で、仏前を飾るということが重要らしく、各地でかわった御供をつくる。たとえば、天理市上仁興では「大飯供・小飯供」などと呼ばれる円錐形の御供や、榛原町長峯の「まゆだま・兎除けのまじない・百合の花」など作り、興味ある行事として残っているのである。

(2)　社会組織への影響

村人が共同で行なわねばならぬことが多かった昔の村落において、常々何組かのグループを作っていた。その場合単に組としてではなく信仰によっての組を作ることが多かった。たとえば葬式を中心とした念仏講、観音講などはその一例である。また村の堂の薬師をまつるための薬師講、あるいは大峯信仰の行者講、百姓の神さんとして庚申をまつる庚申講など講をつくり、これらのグループで共同作業をする場合が多かった。これらの講ではそれぞれ信仰の対像になる掛軸や仏像を持ってそれを祀っている。それらの掛軸や仏像などはあきらかに仏教的な影響をうけたものである。

(3)　先祖供養への影響

仏教的年中行事の中に大きな比重を占めているのに死者の供養がある。主に彼岸会や盂蘭盆会に行なわれるものである。8月15日の盂蘭盆会には、各自の仏檀に供えものをしたり、初仏（初盆）にはアラタナを作り祭ったりする風習はほとんどの村落でみることができる。この風習は中世期において念仏聖などによる影響が強く、念仏講などになって村落に定着していったのであろう。しかし決定的に、彼岸会や盆行事が民間に定着したのは、江戸時代の檀家制度によるところが大きかったと考えられている。死者を祀るために記録する過去帳が作られるのが江戸時代初期で、このころ明確に村落に定着したのであろう。

註①　「三宝絵詞」（『大日本仏教全書』所収）
註②　「井上次兵衛覚書」（『曽爾村史』所収）

大和の民俗行事（16）

蓮　華　会

奥野義雄

大和にのこる年中行事のうち、今回は蓮華会を紹介することにしよう。

蓮華会は、衆知のごとく今日では法華寺・当麻寺・金峯山寺蔵王堂・金剛山転法輪寺・そして東大寺などの寺院で執行される年中行事の一つである。時期は７月７日（蔵王堂・転法輪寺）、７月17日（法華寺）、７月22日（当麻寺）、７月28日（東大寺）で、法会内容もその寺院の縁起・由来などによって異なる。ただ、大雑把に捉えてみると修験道とかかわりをもった法会内容のものと、そうでない法会内容のものに二分できるようである。

いま、ここで前者の法会について垣間見ながら、蓮華会の在り方を窺っていくことにしよう。修験道とかかわる、とりわけ役行者を開祖とする吉野山金峯山寺蔵王堂の蓮華会の執行次第をみよう。

吉野山金峯山寺蔵王堂の蓮華会は、「蛙飛び」として大和および周辺地域から近年とみに見学者が増えてきている行事である。

７月７日、桜井市奥田へ、同寺の寺務関係者、妙法院々主、修業僧ら４～５名が、また吉野山地区の区長、花供講（ハナッコ）総代や世話人・婦人会の人たち11人程が向う。奥田地区では、すでに早朝に蓮池から切り取ったハスとともに吉野山からの使者を待つ。

吉野山からの使者と奥田地区の人たちとが合流し、蓮池の弁財天の前で大護摩供が営まれる。妙法院々主による白表の奏上の後、山伏組織の会式協讃会の人たちによって柴燈護摩に点火される。かつては、この大護摩供の前に、蓮池のハスをいただいてから、蓮花を入れた桶を荷って蓮池を１周したという。いまでは、蓮花をいただいてから、虎姫（虎女）御前の墓所に詣って蓮花を供花して後に護摩供が始まる。この虎姫御前という人は、役小角の母で、その生誕地が奥田であるところから、蔵王堂の蓮華会の一蓮の行事として蓮池の弁財天の前で護摩供が行なわれるという。おりしもこの日奥田では〈弁天まつり〉が行なわれている。まったく、別のまつりであるが、奥田地区の人たちによる蓮華会への奉仕が脈々と受け継がれてきたのである。

奥田での大護摩供が終ると吉野山からの使者と同地区の人々は六田（大淀町）の初花権現へ向う。すでに吉野山から奥田へ向う一行の内、３人程がこの六田へ先鋒として行く。この六田の初花権現は、行者・山伏の大峯修業のための最初の行場である。六田の〝柳の渡し〟として山伏・行者のミソギの場として知られている。吉野山・奥田の一行が、六田への先鋒者と合流し、初花権現の前で大護摩供が執り行なわれる。午後１時頃である。この頃、吉野山では、竹林院を出発した子供御輿と蛙の乗った蒲団太鼓が町内を練り歩きはじめる。そして、最終地点である吉野ケーブル山上終点前へ向うのである。

六田では大護摩供が終ると、合流した人たちが吉野へ向う。吉野山の使者を先頭に山伏・行者が後につづく。

一方、吉野山では、子供御輿と蛙の太鼓台が山上終点に向って練り歩く、午後２時半頃、寺から十余人の人たちにかつがれた神輿が出発し、先に山上終点に向う。そして、子供御輿と蛙の太鼓と合流し、蓮花の一行を待ち迎えるのである。午後３時過ぎ、蓮花の一行が山上終点に到着する。到着後、寺僧による儀式が終ると、一行は蔵王堂に向う。４時を少し過ぎた時刻に、所謂「蛙飛びの行事」＝蓮華会が執り行なわれる。まさに、蓮華会のクライマックスである。蓮花を先頭に蔵王堂に向った管長以下の寺僧・山伏などの一行が、所定の位置につく。つまり、蔵王堂に着いた神輿が内陣へ入り、管長以下寺僧による内陣での供花と読経による法要が営まれ、太鼓台に乗っていた蛙が外陣へ現われて、「蛙飛び」が始まる。堂前の石段の最上段前に管長が、石段の最下段前の左右に役僧として竹林院々主と妙法院々主が着座する。年によって役僧は桜本坊々主、吉蔵院々主も受けもつという。この役僧は、蛙が人間に返えるべき経文を授けるために左右に侍り、「脇師」とも呼ぶ。

蛙は左右の役僧からの経文（呪文）を受けて後、堂外陣正面の授戒の導師をつとめる管長の前へ出向いて、人間へ変化する。これが蛙飛びの填末である。だが、蓮華会自体の法会は、もっとも厳しい大峰山上への献花をもって終るのであって、翌朝、管長（管長が行かない場合は、妙法院々主あるいは他の院坊院主）以下の修善僧・山伏が、蓮花を荷って、途中の霊場への供花を行なうのである。こうして吉野山金峯山寺蔵王堂での蓮花会の法要が終る。

言い伝えによれば、白河天皇の御代に行者の精進に、かつ権現の神力に侮辱の言語を吐いた男が、改悛の色を現わして、蛙に変化した自らの姿を蔵王権現の前で、僧侶の読経の功徳で人間に戻るという、権現の神力・法力による功徳をとくものであった。

このように蓮華会において、功徳をとく物語は吉野山金峯山寺の行事にとどまるが、各寺院の縁起・由来に伴なった法会が営まれる。たとえば、当麻寺ではハス糸で曼荼羅を織った中将姫の著名な話にまつわる〈中将姫蓮絲曼荼羅〉の大法要として行なわれる法会を蓮華会と呼ぶ。かつて、当麻寺の蓮華会では、行事に使われた蓮花は大阪府北河内の山田や香芝町別所などの地から運ばれたが、今日では絶えてしまった。この両地域とも当麻寺と関連する地であるという。

また、東大寺でも〈除厄防病〉の行事として行なわれている。これと同様な内容をもつ法会を法華寺でも行ない、除厄祈願を行なうという。ただ、東大寺では、朝方寺僧たちが〝茅の輪〟をくぐった後、廬舎那仏々前で厄除けの読経法要を営んだ後、観音経の読経があり、除厄が祈願されるのである　（茅の輪くぐりを行なって除厄防病を行なう行事は、神社の年中行事としてある）。

このように金峯山寺では〈功徳〉を説き、東大寺や法華寺では〈除厄〉を祈願し、当麻寺では〈供養〉を行なうというごとく、各寺院の特色をもった蓮華会が執行されているのである。仏教的観念にもとずく〈蓮華〉を通して、供養と祈願のありさまが窺えるといえよう。

▲　町内を練る蒲団太鼓

▲　蛙飛びのクライマックス

民俗資料調査抄報　③

鍛冶屋の製作技術

芳井敬郎

本調査は奈良県下で数少なくなったカジ屋※の作業内容である。なお、カジ屋の取り扱うものは所在地の関係から、木材関係の刃物類の多いのが特徴である。その内容を記すと以下のようになる。

樽物道具、シャコ（曲杓子）づくり道具、割り箸づくり道具、山林道具、銘木づくり道具、桶ブタつくり道具、桶づくり道具、畑道具など。

刃物類の製作工程を記すと、

① 火おこしをし、地ガネを火に入れる。
② 地ガネを金トコでたたく。
③ ハガネを火に入れる。
④ 薬を地ガネにかけハガネをその上に置く。
⑤ 合わせたものを火に入れ、それをたたいてハガネを固定させる。

⑥ 動力ハンマーで形をつくる。
⑦ 地ガネをツチとタガネで適当な大きさに切る。
⑧ 火に入れる。
⑨ 火から出し、金ドコの上で延ばしながら形にする。
これまでを火づくりとよぶ。それから、
⑩ グラインダーでほぼ仕上げの形、寸法にする。
⑪ 表裏を研いて、焼きを入れる。
⑫ また、仕上トイシで研く。
⑬ 藁灰のアクで洗う。
⑭ 湯につけて、乾す。

ようするに、地ガネと刃先の部分となるハガネをつなぎあわせ、延ばして形をつくる（これまでが火づくり）。それから無駄な部分をけずりおとし、刃先を研ぎだして仕上げるのである。

材料、諸道具など、以前とは異なっている点が多い。まず風をおこすフイゴは五年ほど前に送風機にかえ、燃料も同時に炭からコークスにかえた。しかし、ものによっては焼入れの際現在も炭を使用する。また、ムコウツチ、すなわち相方が扱う大ツチが動力ハンマーにかわった。それから、現在はグラインダーを使用するが、以前はヤスリとコウスキで作業をした。またハガネをつける薬を用いる以前は、まず地ガネの上にハガネを置き、その上に藁灰をのせ赤土をかけ、火のなかへ入れてワカした（ようするに白くなるぐらい焼いた）。

※本文は奈良県吉野郡下市町善城住、塚本元治氏（明治32年生）の作業内容であることを記し、協力に感謝する。

▲ 動力ハンマーで形をつくる。

▲ 金ドコの上で形をなおす。

▲ 仕上トイシで研く。

★★★★ おしらせ ★★★★

●民俗博物館の行事予定

9月9日　民家講座（PM2～）
講師　宮本長二郎氏「伝統的建造物群について」
講師　吉田　　靖氏「近畿の民家について」
9月23日　体験学習講座〈ワリバシつくり〉
9月30日～11月25日
特別テーマ展　「寺院と年中行事」
10月7日　特別講演・発表会（PM2～）
浦西勉（当館学芸員）列品解説
講師（京都大学名誉教授）柴田實氏「寺院と年中行事（サブタイトル未定）」
10月21日　特別スライド・映画の会（PM2～）
スライド「修正会・修二会」・解説　浦西勉
映画「東大寺・お水取り」
10月28日　体験学習講座〈オケつくり〉
11月4日　特別講演・発表（PM2～）
発表　浦西勉「村落寺院と年中行事」
講師　井村良襄氏「庚申信仰について」
11月18日　特別スライド・映画会（PM2～）
スライド「盆行事・念仏講」・解説　奥野義雄
映画「東大寺・お水取り」
11月25日　体験学習講座〈ナベツカミつくり〉
12月2日～3月30日
テーマ展（長期）「日々のくらし」

《表紙解説》　毎年7月23日と24日両日夕刻から帯解寺で地蔵会が執行される。とくに7月23日の夕刻の法会には数人の僧侶たちによる読経が営まれる。安産求子の寺として県内外から詣でる人たちの跡がたたない。この帯解寺の7月23日・24日の地蔵会をかわきりに、県内の町や村で地蔵尊のお祭りが営まれる。

■編集後記■

盆灯籠、盆棚、盆踊り、そして灯籠流しなど夏の風物詩を奏でる日々が、打上げ花火がはなやかに咲いて、散るようにあるいは走馬灯の影絵が消えては現われるように過ぎ、蒼い空はもう秋を濃くしている九月初。一年の半分以上がめまぐるしく過ぎ、残りわずかな日々を〝兎と亀〟の逸話を想い出しながら博物館も民家も公園も一歩一歩あゆむことを知る。一歩づつあゆんできたからこそ知りえた体験であるのだが。　（Z）

奈良県立民俗博物館だより　Vol. Ⅵ　No.2　1979年9月15日　発行
奈良県立民俗博物館 編集発行　〒639-11 奈良県大和郡山市矢田町545 ☎07435③3171(代)　印刷　㈱中西文山堂